

東海市総合福祉計画推進協議会会議録

- 1 会 議 名 令和8年度第1回東海市総合福祉計画推進協議会
- 2 開催日時 令和8年8月3日（月）午後2時～午後3時50分
- 3 開催場所 東海市役所 302会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 原田正樹、八木雅弘、森山慶郷、吉井寛、菊池孝敏、小野宗雄、山田孝介、今井友乃、小野幸子、古谷仁彦、久野辰男、高井智広、橘右樹、松本華子、栗野剛宜、坂野早苗
 - (2) 事務局 市民福祉部長、こども課長、高齢者支援課長、健康推進課長、社会福祉課長、同主幹、同統括主任（2名）、同主任（2名）、社会福祉協議会事務局長、同次長
- 5 欠 席 者 3人（柳田幸喜、小嶋真一郎、杉山勝俊）
- 6 公開の可否 公開
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議の内容

(1) 挨拶（市長）

3月に前任の委員の任期が終了し、4月から新たに19名の皆様に委嘱させていただいた。

熊本地震で被災されている方がみえる中ではあるが、地域の行事に出席させてもらい、地域でのつながりの大切さを改めて感じたところである。

本市では、令和6年度から第4次東海市総合福祉計画をスタートさせ「おもい つながり ささえあう」を基本理念とし、地域の皆様にご協力いただきながら、社会福祉協議会と両輪となりみんなで支え合う体制の構築に向けた取組みを推進している。

また、全国的にも課題となっている身寄りのない高齢者等の社会的孤立を予防するため、今年度から企業向け研修会を実施する予定であり、働いているうちから地域とのつながりを持つ大切さを、学んでい

ただくものである。

委員の皆様には、忌憚ないご意見をいただき、今後とも本市の福祉行政にお力添えいただきたい。

(2) 自己紹介

名簿順に自己紹介

(3) 会長、職務代理者の選出

委員の互選により、原田正樹委員が会長に選出された。

原田会長挨拶

我々の役割は、この第4次東海市総合福祉計画の進行管理を皆さんと議論しながら進めていくことである。皆さんのお力添えを賜りながら、本協議会を有意義なものにしていきたい。

会長より、八木雅弘委員が職務代理者に指名された。

八木職務代理者挨拶

東海市民生委員・児童委員連絡協議会の会長を務めている。本協議会では、会長を精一杯支えていきたい。

(4) 諮問

市長より原田会長へ諮問した。

(5) 議題

ア「令和7年度（2025年度）評価・分析について」資料1-1、1-2
社会福祉課長より説明

原田会長 第4次東海市総合福祉計画では、9つの施策があり、その中に26の指標を掲げている。地域福祉はとても幅広い分野であるため、PDCAを回していくためにもきちんと指標を作ることが大切である。

数値だけで評価できるものばかりではないため、きちんと要因分析をすることが重要である。資料1-2が各所管課による評価分析が記載されている。委員の皆様には、それぞれの立場からお気づきの点があれば、ご発言をお願いしたい。

古谷委員 施策2の評価分析の中で、「定年延長等に伴い、地域活動への

参加が減少している」とあるが、年代別の割合はどのようになっているのか。若い世代の参加も低いと思われるが、その場合、若い世代ともつながる工夫が必要となってくるのではないか。

事務局 指標5の「地域福祉活動に担い手として参加している人の割合」について、65歳以上の割合が昨年度と比べて減少していることから、上記の様に分析している。年代別の割合については、75歳以上で27%、40代で34%、30代で15%、20代で3%となっている。

原田会長 古谷委員のご指摘のように、世代によって割合が異なるため、様々な世代に対するアプローチが必要となってくる。

吉井委員 施策1指標1について、当施設では3年前から福祉の相談窓口の看板を掲げているが、なかなか相談が入らない。相談支援機関以外の窓口でどのくらい相談が入っているのか教えていただきたい。

事務局 相談支援機関以外の窓口から相談につながったケースはほとんどない。地域から相談につながったケースは民生委員からのものが多い。

吉井委員 当施設のような、相談支援機関以外の施設でもっと気軽に相談できるようになると良いと考えている。

山田委員 施策4の本市における自殺死亡率の年代別の数値が分かれば教えていただきたい。

事務局 2020年から2024年の5年間の合計の数値としては、40から59歳男性が14名、60代以上の男性が11名、40から59歳女性が9名となっている。

八木委員 施策2指標4のアンケート結果で明倫地区が高い割合となっているが、なぜ明倫地区で良い結果が出たのか要因が分かれば教えていただきたい。

事務局 アンケート結果によるものであるため、明倫地区で特別な取り組みをしたという認識はない。

栗野委員 施策6指標17における避難行動要支援者個別避難計画の作

成率とは、どのような数字を意味しているのか。

事務局 要支援者に対して、市から計画の作成について郵送で依頼させていただき、実際に計画を作成し、提出された方の割合である。

栗野委員 民生委員には、要支援者名簿が配布されているはずだが、近年では持っているだけの方も増えていると聞いている。高齢者実態調査もなくなり、地域の方の顔を知らない民生委員も増えている。ぜひ、自治会長等と一緒に訪問をする機会を作っていただきたい。

八木委員 私が会長に就任してからは、名簿を持っているだけでなく、できるだけ訪問するような雰囲気づくりを心掛けている。秋頃からは、実際に動いてもらえるように準備をしている。

原田会長 民生委員や地域の方だけでなく、行政や専門職がどう支援していくのか検討して、実行に移していく必要がある。

山田委員 先程の自殺死亡率について、全国的に若者の自殺が増えているが、東海市の若者の自殺率の推移が分かれば教えていただきたい。

事務局 2020年から2024年までの20歳未満の方の自殺者数については、全国と比較して差はあまりない。

坂野委員 施策9指標26について、子どもの遊び場がいつオープンするのか決まっていれば教えていただきたい。

事務局 屋内の子どもの遊び場について、今年度実施設計を完了し、令和9年に工事、令和10年5月頃にオープン予定である。

イ「協議会の進捗状況について」資料2

社会福祉課長、こども課長、高齢者支援課長、社会福祉協議会事務局より説明

ウ「生活支援コーディネーター及びコミュニティーソーシャルワーカーの活動等について」資料3

社会福祉協議会事務局次長より説明

エ「各プロジェクトの進捗状況について」資料4

社会福祉課主幹、同統括主任より説明

イ～エの内容について主な質疑等は以下のとおり

高井委員 資料2について、要保護児童対策地域協議会の対象となる世帯が30世帯とのことだが、基準や認定の方法がどのようなになっているのか。また、世帯数の推移はどのようなになっているのか教えていただきたい。

事務局 虐待など、緊急性が高い世帯や継続して経過を見ていく必要がある世帯を対象としている。例年の推移を見ると、年度内で多少の変動はあるものの、概ね30世帯前後を推移している。

山田委員 近年、様々な制度が増えて支援フローが複雑化してきていると感じている。窓口対応をする中で、どこにつなげると良いのか迷うことがあるため、一度きちんと整理をして仕組み化すると良いのではないか。

原田会長 先程、吉井委員のご発言にもあったように、相談窓口をたくさん作るだけでなく、どのような形にすれば相談をキャッチしやすくなるかについても検討していく必要がある。その辺りは相談支援体制プロジェクトではどのような議論がなされているのか。

事務局 相談支援体制の仕組みを考えていく中で、縦割りにならないように意識しているが、山田委員のご指摘のとおり、特に若者支援の支援フローが分かりづらいとの声も上がっていることから、孤独孤立対策プロジェクトの若者支援を中心としたワーキングの中で、今後検討していく予定である。

原田会長 ワーキングには協議会の委員の皆さんも参加することはできるのか。

事務局 可能である。

橘委員 資料3について、地域別意見交換会の中で船島地区のみ実施し

なかった理由を教えてください。また、具体的にどのような活動をしているのかももう少し詳しく教えてください。

事務局 船島地区では、令和6年度に高齢者の見守り活動について話し合いを行い、令和7年度は実際に動いてみる期間としたため、地域別意見交換会は開催しなかったものである。

令和8年度については、昨年度の動きを踏まえて地域から出てきた課題をテーマに地域別意見交換会を開催する予定である。

橘委員 今年度は町内会長も務めているため、町内会自治会単位で民生委員の方たちと意見交換の場を設けて行きたいと考えている。

事務局 社会福祉協議会としても、町内会自治会や学校等、地域との連携を今後も広げていきたいと考えているため、ぜひご協力いただきたい。

原田会長 今井委員、最近の権利擁護の分野での動きはどのようなか。

今井委員 東海市は、全国から仕事の関係で来られた方が多く、地域とつながることなく、孤独に陥るケースの方が増えている。このような中、資料4にもあるように、企業向け研修として、働いているうちから退職後のことを考えるように促す取組みは、社会的孤立を予防する観点からは大変有効だと考える。相談先を事前に知っておくこと、誰かとつながっておくことの大切さをお知らせすることが重要である。

原田会長 松本委員、保健所の立場から何か気づいたことがあれば教えてください。

松本委員 40代の自殺死亡率が高いということもあり、働いているうちからのアプローチはとても大切なことだと感じた。退職された後、地域でどう暮らしていくのか事前の働きかけが大切になってくる。

久野委員 東海市には相談窓口がたくさんあることが分かった。市民にとっては、ここに行けばどんな相談もつないでもらえる、といった仕組みがあると分かりやすいと感じた。

原田会長 相談窓口は増えすぎると分かりにくくなり、1箇所しかないと

不便であるため、どのような形が東海市にとって最適な仕組みなのか、引き続き相談支援体制プロジェクトの中でどのようなセーフティネットを作っていくのか検討していただきたい。

小野委員、保護司会の活動の中で、感じることはないか。

小野委員 市役所が定時で相談を受け付けなくなることが一番困っている。緊急時は保護観察所に判断を仰ぎ、対応している。相談は一人ひとりの目線に合わせて話を聞き、丁寧に解決していくことが一番大事である。

原田会長 本日いただいたご意見を今年度のプロジェクトやそれぞれの協議会、及び各地域のコミュニティソーシャルワークに取り入れながら検討を進めていっていただきたい。

委員の皆様には、4つのプロジェクトの中から関心のあるプロジェクトを1つ選んでいただき、本協議会においても、そのプロジェクトを中心にご意見をいただいたり、無理のない範囲で関わりを持っていただきたい。事務局から関心のプロジェクトを確認させていただき、それぞれのプロジェクトの活動案内を送らせていただく。

(6) その他

ア「今年度の予定について」資料5

社会福祉課長より説明

イ 次回の開催

第2回東海市総合福祉計画推進協議会

令和9年3月8日（月）午後2時から 芸術劇場リハーサル室

(7) 閉会